

# 第95期 中間報告書

平成27年4月1日から平成27年9月30日まで

## 目次

株主の皆様へ	1
「TRY1」3事業分野の取り組み	3
事業トピックス	6
財務ハイライト(連結)	7
連結財務諸表	9
各事業の概況(連結)	10
地域貢献型事業	13
会社情報、株価/出来高、株式の状況	14



取締役社長 加留部 淳

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第95期上半期（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）の事業内容をご報告するにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

当上半期の世界経済を概観しますと、米国経済は雇用改善が継続し消費は着実な拡大を見せました。欧州経済は回復基調が見られるものの、中国経済の変調とともに資源国や新興国の減速が鮮明となりました。

米国の利上げ観測が新興国からの資金流出をもたらし、景気鈍化の原因となっています。

こうした中、わが国経済は個人消費の伸び悩みと輸出回復に緩慢さが見られ、景気は踊り場の状態へ推移しました。

このような環境のもと、豊田通商グループの当上半期

の売上高は4兆2,840億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は237億円と前上半期対比、減収減益となりました。

また、当上半期の実績及び今後の見通しを勘案し、平成27年4月28日公表の通期連結業績予想を修正いたしました。

今回の業績予想の修正は、特殊要因によるところが大きく、通常の事業については堅調に推移しております。

配当金につきましては当初の公表通り据え置き、中間配当金は前期と比較して1株当たり3円増配の31円とし、支払開始日を11月26日とさせていただきます。

当社を取り巻く経営環境は、新興国経済の成長鈍化などにより厳しいものとなり、依然、先行き不透明な部分が残っております。

このような環境ではありますが、当社は持続的な成長を継続すべく、「GLOBAL 2020 VISION」実現に向け、引き続き収益基盤強化を図ってまいります。

各分野においての新たな取り組みを以下ご紹介いたします。

モビリティ分野においては、アセアン地域における自動車関連事業の強化の一環として、マレーシアにて、日立化成グループが生産する自動車用バッテリーの独占販売契約を締結しました。

北中米地域においては、メキシコにて、自動車用鋼管加工会社を設立しました。既存の物流網・拠点ネットワークを通じたバリューチェーン拡充により、自動車関連事業の収益基盤の更なる強化を目指し、お客様のニーズに合った適切な提案・対応を行ってまいります。

ライフ&コミュニティ分野においては、穀物生産の拡大が見込まれるブラジルにて、川上での安定調達・価格競争力を獲得するため、穀物インフラ事業を展開するノバアグリ社 (NovaAgri Infra-Estrutura de Armazenagem e Escoamento Agrícola S.A.) の株式を100%取得しました。

また、当社の重点地域であるアフリカで、関係会社のCFAO社 (CFAO S.A.) はカルフル社 (Carrefour S.A.) と連携し、コートジボワールにて小売店舗第一号店を年内にオープンする予定です。

アース&リソース分野においては、森林資源の有効活用による森林環境の改善、再生可能エネルギーの普及促進を目指し、島根県にて、木質バイオマス発電所 (1万kW) の営業運転を開始し、愛媛県でも参画準備を進めております。

また、青森県六ヶ所村で、国内最大規模の太陽光発電事業であるユーラス六ヶ所ソーラーパーク(11万5,000kW)が完成し、営業運転を開始しました。

このように新規投資を進める一方で既存の事業投資

については、改めて現状を精査し、必要な対策を速やかに講じることで、各案件の早期収益化・完遂を目指してまいります。

当社は、多様な人材が活躍できる環境づくりのため、グローバルダイバーシティ (多様性) & インクルージョン (受容) (D&I) を推進しております。

当期においては、社員ひとりひとりの多様な働き方を尊重し、より高い生産性を実現することを目指し、在宅勤務制度などのトライアルを実施してまいります。

また、本年6月に制定されたコーポレートガバナンス・コードの精神を受け、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に寄与できるような企業統治の仕組みの見直しを行い、株主の皆様にご貢献できるよう、努力を続けてまいります。

株主の皆様には今後とも、ご理解とご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

敬 具  
平成27年11月

## GLOBAL 2020 VISION 2020年までに3つの事業分野で事業ポートフォリオ「1:1:1」を実現

### モビリティ「次代の自動車の進化」に貢献する事業分野

「モビリティ」分野では、車と「人・社会」の接点における自動車ビジネスの変化とそこから生まれるチャンスを先取りし、事業の成長と次代のモビリティへの貢献を目指す。

### ライフ&コミュニティ「生活環境の向上」に貢献する事業分野

「ライフ&コミュニティ」分野では、豊かな社会づくりに貢献する価値創造企業として、「人・社会」により役に立つ多彩な価値を提供する事業の創造と拡大を目指す。

### アース&リソース「地球課題の解決」に貢献する事業分野

「アース&リソース」分野では、食料・資源・自然環境などにかかわる「地球課題」と向き合い、豊田通商グループならではの取り組み方で新たな価値を創造し、事業の更なる成長・拡大を目指す。



※「TRY1」の取り組みについてはP3~5をご覧ください。

## 「TRY1」3事業分野の取り組み

**TRY** GLOBAL 2020 2011年に「GLOBAL 2020 VISION」で掲げた  
**1 VISION** 「TRY1」3事業分野の最近の取り組みをご紹介します

### Mobility

モビリティ

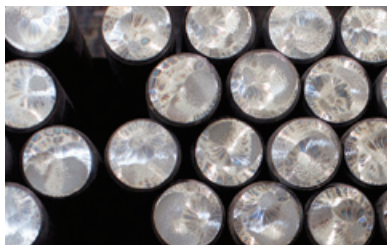
～メキシコでの自動車用鋼管加工事業、  
カンボジアでの販売金融事業への取り組み～

当社は、当社関係会社の豊田通商メキシコ社 (Toyota Tsusho Mexico S.A. de CV)、豊通鋼管株式会社と共同で、自動車に使用される鋼管の加工会社Toyota Tsusho Steel Pipe de Mexico S.A. de CVを2015年7月にメキシコ・ケレタロ州ケレタロ工業団地内に設立しました。

メキシコでは、日系自動車メーカーの4輪増産や各種産業の発展を背景に、日系自動車メーカーの工場進出が進んでおります。こうした中、自動車用鋼管加工需要も急速に拡大しており、それに伴いユーザーの現地調達化ニーズも高まっております。



自動車用鋼管



新会社設立による既存の物流網・拠点ネットワークを通じた更なるバリューチェーン拡充により、現地調達化ニーズに応えてまいります。

また、当社は、これまでインドネシア、ケニア、モーリシャス、カンボジアで自動車販売金融事業を展開してまいりました。

昨年度には、当社関係会社のToyota Cambodia Co., Ltd.の現地パートナーであるクンヌングループ (Kong Nuon Group Co., Ltd.) と共同で、自動車販売の拡大が見込まれるカンボジアに販売金融会社Toyota Tsusho Finance Cambodia Plc.を設立し、メコン地域での販売金融事業への取り組みを強化しております。カンボジアでの販売金融事業への参入は、商社初となります。

# Life &

ライフ&  
コミュニティ

# Community

## ～川上から川下にいたる穀物サプライチェーンの 確立への取り組み～

当社は、食料事業を重点分野と位置付けており、1968年に穀物サイロ事業を創業し現在は日本国内4拠点で同事業を展開するなど、長年の経験と日本国内における取り扱い数量トップクラスのノウハウを強みとしています。今回、穀物の一大生産地であるブラジルにおいて穀物倉庫や鉄道積み替え施設、輸出ターミナル等の穀物インフラ事業

を展開するノバアグリ社の株式を取得し同社を完全子会社とすることで、穀物集荷をはじめとする顧客サービスを強化し、川上から川下にいたるサプライチェーンの確立に取り組み、穀物の安定供給ならびに同分野における更なる事業の拡大を目指してまいります。



穀物集荷ターミナル



穀物倉庫



## Earth &

アース&  
リソース

## Resource

～クリーンなガス焼き発電で北米の電力を担う～

当社は、電力事業において、北米市場を戦略的  
重要市場の1つと位置付け、2009年より組み  
組を開始し、現在操業中・建設中発電所を合わせて  
5案件が進行しております。

アメリカは中国と並ぶ世界有数の電力消費国で  
あり、同国の年間の総発電量\*1は、日本の約4倍に  
相当する約4,000TWhとなっています。

当社は環境に配慮したクリーンでエネルギー効率  
の良い天然ガスを使った発電所の建設・運営により、

現地での電力安定供給に力を入れております。

2016年から17年には建設中の発電所が稼働予定  
であり、総発電容量\*2は3,000MWを超える予定と  
なっています。

当社は、北米での更なる躍進を見据え、開発から  
プラントの運営・管理・建設・燃料供給なども含め  
た発電事業のバリューチェーン構築を目指してまい  
ります。

※1総発電量：一定期間内に発電された電力量の総和

※2総発電容量：発電設備の発電能力（規模）の総和



④シヨア発電所



# TOPICS

(平成27年4月～9月)

4月

1日 豊田インターチェンジ水素ステーションを開業

13日 マレーシアにて自動車用バッテリー販売事業を強化

16日 メキシコにて自動車用鋼管加工会社を設立へ

6月

3日 島根県にて木質バイオマス発電所の竣工式を開催

15日 当社と当社関係会社のCFAO社は共同でカメルーンでの株式会社マキタ製電動工具代理店事業を開始

7月

21日 現地調達化ニーズに対応するため、中国の特殊鋼板製造事業に参画

23日 長崎県五島市でのクロマグロ種苗生産の本格稼働に向け、ツナドリーム五島種苗センター開所式を実施

9月

15日 沖縄にてクロマグロ中間育成事業を開始へ

28日 コートジボワールにおいてCFAO社が、ハイネケン社(Heineken N.V.)と合併会社ブラシボワール社(BRASSIVOIRE)を設立

30日 仙台空港特定運営事業等につき国土交通省と基本協定を締結



●日立化成グループ製自動車用バッテリー  
独占販売契約

アセアン地域において拡大が見込まれるアフター部品市場での取り組みを強化してまいります。



●マキタ製電動工具販売

カメルーンへの市場参入を足がかりに、アフリカでのマキタ製品の販売拡大を目指してまいります。

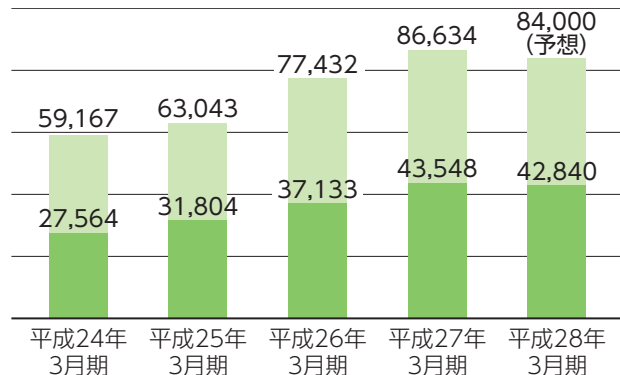
## 当上半期連結業績

売上高は減収となりました。  
また、親会社株主に帰属する四半期純利益は  
特殊要因により、前年同期比で  
減益となりました。

### 業績の推移>>>

■：上半期 ■：通期

#### ■ 売上高(単位:億円)

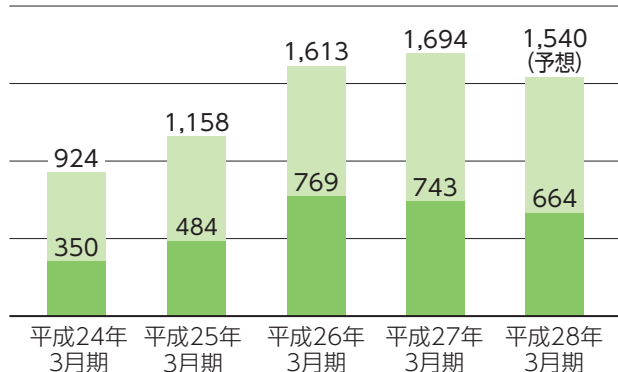


売上高 4兆2,840億円

市況の下落及び前期決算期統一の影響等により、機械・エネルギー・プラントプロジェクト本部、金属本部等で減収となり、前年同期比708億円減少の4兆2,840億円となりました。



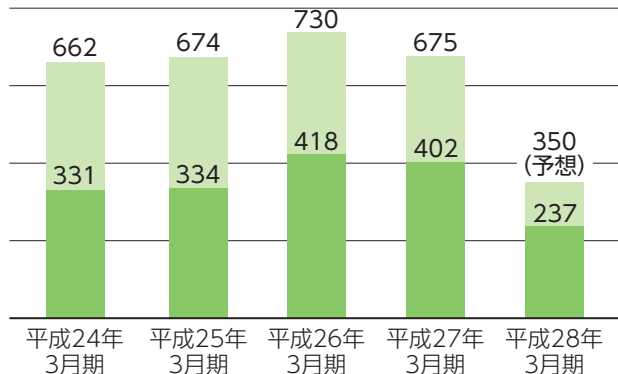
## ■ 営業利益 (単位: 億円)



営業利益 **664**億円

主に機械・エネルギー・プラントプロジェクト本部における車輛設備の取り扱い増加等によるプラスの影響はあったものの、新規に連結した子会社の影響等により販売費及び一般管理費が増加したため、前年同期比79億円減少の664億円となりました。

## ■ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (単位: 億円)



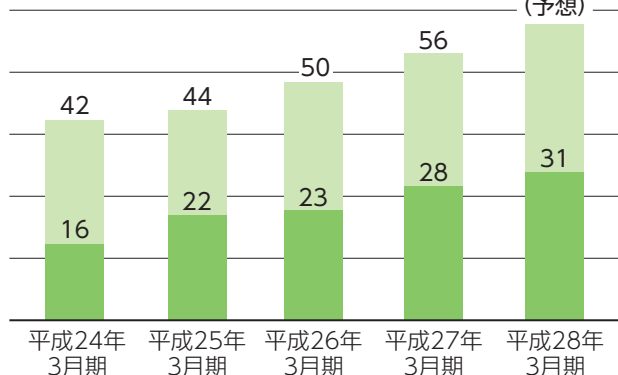
親会社株主に帰属する  
四半期純利益 **237**億円

投資有価証券及び出資金評価損等の影響により、前年同期比165億円減少の237億円となりました。

尚、昨今の資源価格低迷及び各投資案件の事業価値の見直し等により、通期予想を期初予想の700億円から350億円へ下方修正しました。

※「企業結合に関する会計基準」等を適用し、当連結会計年度より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としており、前連結会計年度までの四半期(当期)純利益についても科目名を統一しております。

## ■ 1株当たりの配当金 (単位: 円)



1株当たりの配当金 **31**円

当期の中間配当金は、前期と比較して1株当たり3円増配の31円とさせていただきます。また、年間配当金は、6円増配の62円となる見込みです。

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表(要旨)

### ● 資産の部

(単位:百万円)

科目	当第2四半期連結会計期間 (平成27年 9月30日現在)	前連結会計年度 (平成27年 3月31日現在)
<b>流動資産</b>	<b>2,702,610</b>	<b>2,769,209</b>
<b>固定資産</b>	<b>1,715,939</b>	<b>1,764,484</b>
有形固定資産	619,987	583,819
無形固定資産	371,508	400,392
投資その他の資産	724,443	780,272
<b>資産合計</b>	<b>4,418,550</b>	<b>4,533,693</b>

### ● 負債の部

(単位:百万円)

科目	当第2四半期連結会計期間 (平成27年 9月30日現在)	前連結会計年度 (平成27年 3月31日現在)
<b>流動負債</b>	<b>1,985,645</b>	<b>2,061,727</b>
<b>固定負債</b>	<b>1,197,378</b>	<b>1,167,482</b>
<b>負債合計</b>	<b>3,183,024</b>	<b>3,229,210</b>

### ● 純資産の部

(単位:百万円)

科目	当第2四半期連結会計期間 (平成27年 9月30日現在)	前連結会計年度 (平成27年 3月31日現在)
<b>株主資本</b>	<b>856,598</b>	<b>844,499</b>
資本金	64,936	64,936
資本剰余金	153,667	155,021
利益剰余金	641,620	628,399
自己株式	△3,625	△3,858
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>212,078</b>	<b>281,012</b>
その他有価証券評価差額金	110,630	137,976
繰延ヘッジ損益	△15,021	△15,797
為替換算調整勘定	112,852	154,903
退職給付に係る調整累計額	3,616	3,930
<b>新株予約権</b>	<b>41</b>	<b>127</b>
<b>非支配株主持分<sup>(注)</sup></b>	<b>166,808</b>	<b>178,844</b>
<b>純資産合計</b>	<b>1,235,526</b>	<b>1,304,483</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>4,418,550</b>	<b>4,533,693</b>

※百万円未満は切り捨てています。

詳細は当社ホームページで  
ご確認ください。

豊田通商 決算短信

検索

## 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間 (平成27年4月1日～ 平成27年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (平成26年4月1日～ 平成26年9月30日)
<b>売上高</b>	<b>4,284,060</b>	<b>4,354,801</b>
売上原価	3,978,997	4,053,712
<b>売上総利益</b>	<b>305,062</b>	<b>301,088</b>
販売費及び一般管理費	238,658	226,734
<b>営業利益</b>	<b>66,403</b>	<b>74,354</b>
営業外収益	25,530	27,978
営業外費用	25,444	19,988
<b>経常利益</b>	<b>66,490</b>	<b>82,344</b>
特別利益	8,129	9,357
特別損失	23,266	4,374
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>51,353</b>	<b>87,328</b>
法人税等	17,964	33,552
<b>四半期純利益<sup>(注)</sup></b>	<b>33,389</b>	<b>53,775</b>
非支配株主に帰属する四半期純利益 <sup>(注)</sup>	9,602	13,518
<b>親会社株主に帰属する四半期純利益<sup>(注)</sup></b>	<b>23,786</b>	<b>40,257</b>

※百万円未満は切り捨てています。

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

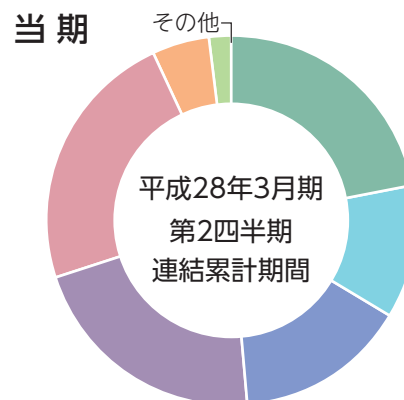
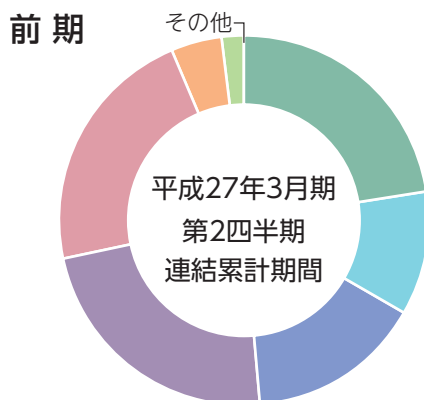
科目	当第2四半期連結累計期間 (平成27年4月1日～ 平成27年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (平成26年4月1日～ 平成26年9月30日)
営業活動による キャッシュ・フロー	73,020	△8,734
投資活動による キャッシュ・フロー	△94,184	△96,330
財務活動による キャッシュ・フロー	△14,812	106,513
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△6,438	828
現金及び現金同等物の 増加額(△は減少)	△42,414	2,277
現金及び現金同等物の 期首残高	499,157	412,032
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	5,436	1,492
現金及び現金同等物の 四半期末残高	462,179	415,802

※百万円未満は切り捨てています。

(注)「企業結合に関する会計基準」等を通用し、当連結会計年度より、「少数株主持分」は「非支配株主持分」に、「少数株主損益調整前四半期純利益」は「四半期純利益」に、「少数株主損益」は「非支配株主に帰属する四半期純利益」に、「四半期純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

# 各事業の概況(連結) (平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)

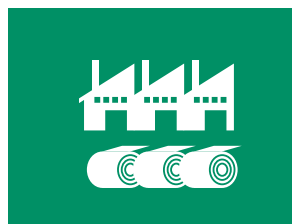
## ■セグメント別売上高構成比



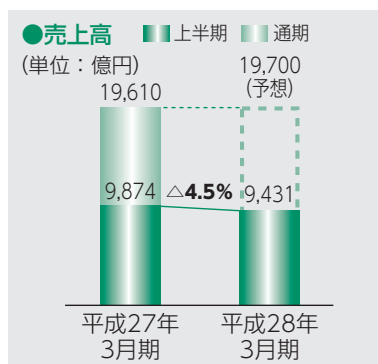
	前期	当期
■ 金属本部	22.7%	22.0%
■ グローバル部品・ロジスティクス本部	10.7%	11.7%
■ 自動車本部	15.4%	15.1%
■ 機械・エネルギー・プラントプロジェクト本部	23.1%	21.3%

	前期	当期
■ 化学品・エレクトロニクス本部	21.9%	23.1%
■ 食料本部	4.5%	5.1%
■ 生活産業本部	1.7%	1.7%
■ その他	0.0%	0.0%

## 金属本部



売上高  
**9,431億円**



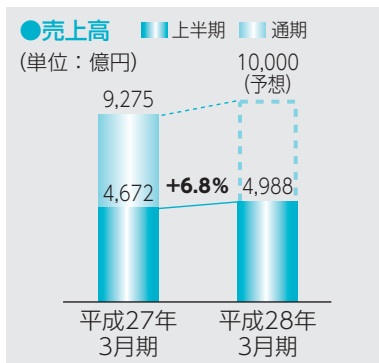
鉄鋼分野では、自動車分野の成長が今後見込まれているメキシコにおいて、自動車用鋼管加工会社 Toyota Tsusho Steel Pipe de Mexico S.A. de CVを設立し、本年11月の操業開始を目指します。非鉄金属分野では、当社グループが出資するアルゼンチンのリチウム開発事業会社 Sales de Jujuy S.A.が、同国フイ州オラロス塩湖にて生産するリチウムの販売を開始しました。また、経営基盤強化を図るため、当社事業の一部を、豊通鉄鋼販売株式会社及び豊通マテリアル株式会社に集約化し、承継させる会社分割を行うことを決定しました。

## 各事業の概況(連結) (平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)

### グローバル部品・ ロジスティクス本部



売上高  
**4,988億円**

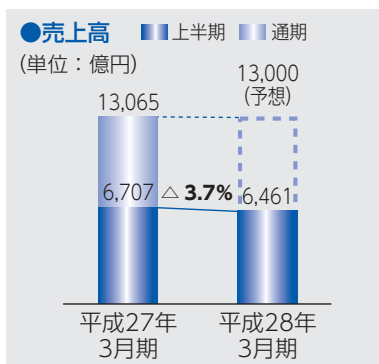


マレーシアにおいて、日立化成グループが生産する自動車用バッテリーに関し、アフターマーケット向けの独占販売契約を締結しました。また、カメルーンにおいて、電動工具製造販売の株式会社マキタの海外現地法人であるMakita Africa s.a.r.l.a.u.と同国での総代理店契約を締結しました。

### 自動車本部



売上高  
**6,461億円**

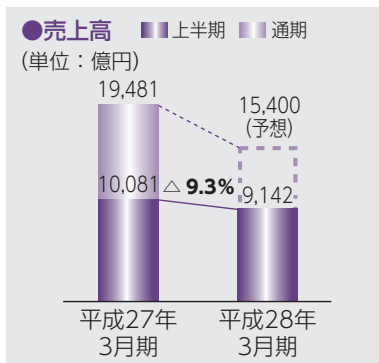


カンボジアで販売金融事業が着実に拡大しており、ケニアでは人材育成センター (Toyota Kenya Academy) における幅広い人材育成も推進しています。また、当社が出資するCFAO S.A.が、ナイジェリアにおいて、ヤマハ発動機株式会社と二輪車製造・販売事業を行う合併会社を設立しました。更に、コートジボワール及びコンゴ (民主共和国) において、拡大が見込まれる個人顧客への販売を強化すべく、最新設備を有した自動車販売・サービス拠点を新規に開業しました。

### 機械・エネルギー・ プラントプロジェクト本部



売上高  
**9,142億円**

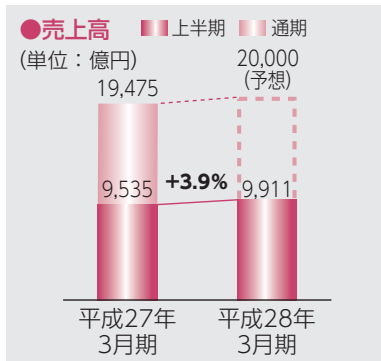


立命館大学発のベンチャー企業である株式会社三次元メディアに出資しました。これにより株式会社三次元メディア及びオムロン株式会社等と共同で、高精度な三次元計測技術「三次元ビジョンセンサ」を活用し、今後ますます進む製造業の自動化に貢献すべく中国市場を皮切りにグローバルに展開します。また、仙台空港の運営事業等に係る公募手続きにおいて、東京急行電鉄株式会社等と共同で、優先交渉権者として選定され、国土交通省と基本協定を締結しました。

## 化学品・ エレクトロニクス本部



売上高  
**9,911**億円

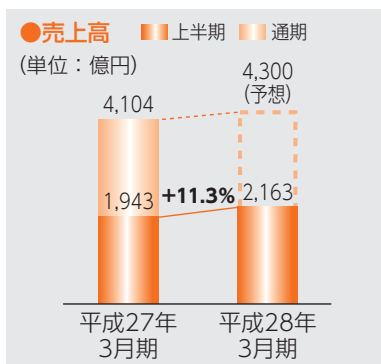


化学品分野では、ケニアにおいて肥料の製造・販売会社Toyota Tsusho Fertilizer Africa Ltd.を設立しました。同国農業の発展への貢献を目指し、ケニアの土壌と作物に適した肥料を生産・供給していきます。エレクトロニクス分野では、当社グループのエレマテック株式会社とのより一層の連携強化を図るため、同社株式を追加取得しました。

## 食料本部



売上高  
**2,163**億円

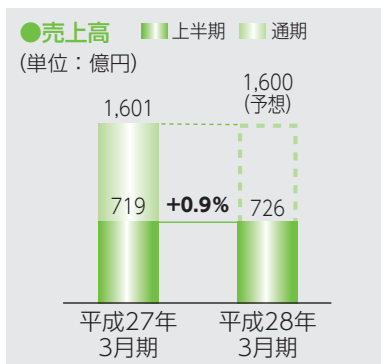


農水事業分野では、学校法人近畿大学と水産養殖事業の推進に関する覚書を締結し、より一層連携を強化するとともに、長崎県五島市に株式会社ツナドリーム五島種苗センターを設立し、クロマグロ人工種苗の安定的な生産・供給を目指します。穀物分野では、ブラジル中・北東部で穀物インフラ事業を展開するNovaAgri Infra-Estrutura de Armazenagem e Escoamento Agrícola S.A.の株式を取得し子会社化しました。

## 生活産業本部



売上高  
**726**億円



リビング&ヘルスケア分野では、シャープ株式会社及び株式会社ヒカリスportsと提携し、試験運用を行ってきたフィットネスジム対応健康管理サービスを本格展開しました。また、名古屋ささしまライブ24地区で建設を進めている複合施設「グローバルゲート」において、株式会社プリンスホテルとの間で、ホテル・コンファレンスセンターの出店について合意しました。

### アフリカ向け社会貢献型ベンチャー育成基金による初出資

～ザンビア・大規模農業とエチオピア・皮革製品縫製の2事業を支援～

当社は、2014年に設立したToyota Tsusho CSV Africa Pte,Ltd. (以下、CSV Africa) を通じ、ザンビアにおける大規模農業事業に300万USドルの出資と、エチオピアでの皮革製品縫製事業に30万USドルの出資を行うことを決定しました。

CSV Africaは、アフリカでの雇用創出と人々の経済的自立を主眼とする起業を支援する社会貢献型ベンチャー育成基金で、現地社会の抱える問題の解決に資する事業の育成を一番の目的としています。これまで、ケニアやタンザニア、ルワンダ、エチオピアなど東アフリカを中心に現地調査を行い、慎重に案件を選定し、今回の2件を選出しました。

今後は、5年間の支援を通じて、両事業のバリューアップに努めるとともに、ザンビア及びエチオピアの経済発展に貢献してまいります。



ザンビアの農場

トウモロコシ栽培



エチオピア



ザンビア



エチオピアの皮革製品縫製工場で働く人々

## 会社情報 (平成27年9月30日現在)

商号 豊田通商株式会社  
(TOYOTA TSUSHO CORPORATION)  
設立 昭和23年7月1日  
資本金 64,936百万円  
従業員数 53,241名 (平成27年3月31日)  
(出向者除き、受入出向者含む)

## 株式の状況 (平成27年9月30日現在)

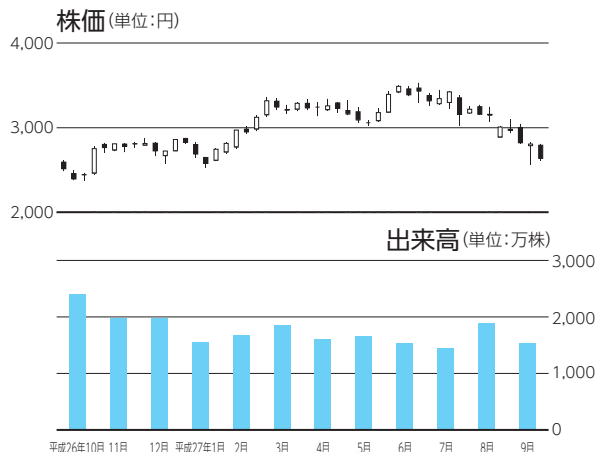
株式の総数 発行可能株式総数 1,000,000,000株  
発行済株式総数 354,056,516株  
株主数 47,165名

### 大株主 (上位10名)

株主名	所有株式数(千株)	所有株式比率(%)
トヨタ自動車株式会社	76,368	21.69
株式会社豊田自動織機	39,365	11.18
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	20,211	5.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	12,876	3.66
株式会社三菱東京UFJ銀行	8,098	2.30
三井住友海上火災保険株式会社	6,000	1.70
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー505223	4,348	1.24
株式会社三井住友銀行	4,249	1.21
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	4,087	1.16
東京海上日動火災保険株式会社	4,049	1.15

(注) 所有株式比率は、自己株式数1,997,180株を控除して計算しています。

## 株価／出来高 (平成26年10月1日から 平成27年9月30日まで)



### 予想及び見通しに関して

この中間報告書には、当社の将来についての計画や戦略、業績等に関する予想及び見通しの記述が含まれています。これらの記述は過去の実事ではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく見込みです。これらの見込みは、経済動向、為替レート、法律、規制、政治情勢等にかかわるリスクや不確実性を含んでいます。それゆえ実際の成果や業績、実績などは記載の見込みとは大きく異なることがあります。株主・投資家の皆様には、これらの情報に全面的に依拠されて判断されることのないよう、お願い申し上げます。

本誌の内容に関するお問い合わせ、ご意見やご感想などはこちらにお寄せください。  
豊田通商株式会社 財務部 IR室 電話 (03) 4306-8201

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料、土・日・祝日を除く午前9時から午後5時まで)
上場証券取引所	東京・名古屋の各証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.toyota-tsusho.com/ir/">http://www.toyota-tsusho.com/ir/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

### (ご注意)

1. 株主様の住所変更、配当金の振込指定、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に口座をお持ちの株主様の各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取り扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

 **TOYOTA TSUSHO CORPORATION**

〒450-8575 名古屋市中村区名駅四丁目9番8号 センチュリー豊田ビル  
ホームページ <http://www.toyota-tsusho.com>

**UD  
FONT**

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

